

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進するために、地域の人材も活用し、学年に応じたキャリア教育を計画し、志と地域を誇りに思ふ心を高める教育の充実を図る。 保護者アンケートの結果より、今年度は、特に「温かい雰囲気や学級づくり」「やさしい言葉遣い」「夢や目標に向けて努力する」に重点を置いて取り組む。 校内研究のより一層の充実を図る。一人一台タブレット端末の活用を重点置き、グループワークやクラスワークの場面で話し合いのもち方とタブレット端末の活用法に焦点を当てて校内研究を深める。 児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、地域防災訓練等を、家庭・地域と連携して計画的に実施する。 若手教員が年々増えてきているので、初任者指導教員や初任研コーディネーター、初任者メンター、中堅教員等に働きかけ、若手教員向けの研修とメンターミーティングの充実を図る。
2 学校教育目標	「やさしい」「かしこい」「たくましい」外町っ子の育成 ～ 子どもが笑顔で登校、満足で下校する学校 ～
3 本年度の重点目標	<p>①「やさしい子」→思いやりの心をもち、友達と共に高め合う子の育成 ②「かしこい子」→目標をもち、学ぶ楽しさを味わう子の育成 ③「たくましい子」→健康な心と体をもち、粘り強く取り組む子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童一人ひとりの人権尊重を基本とし、これからの社会の変化に主体的に対応できる、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成 ○成就感や自己肯定感を高める教育の推進

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師80%以上 ○図書室の貸出目標冊数を達成した児童85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上対策シートを用いた研修を行う。 全国及び県の学習状況調査の結果の共有・改善のための職員研修を行う。 朝読タイムなど、児童が本に触れる時間を意図的に設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上対策シートを用いた研修を行うことができた。 学習状況調査の結果の共有・改善のための職員研修を行うことができた。 朝の読書タイムや読み聞かせなど、本に触れる機会を増やし、学力向上の取り組みを行うとともに、GIGAタイム・算数タイムを取り入れたりして取り組んできた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に今年度計画していた取り組みは実施を行うことができた。思考的な問題や発問に合わせて論理的に自分の考えを説明できるように1人1台端末等を活用しながら取り組むことができた。 朝読タイムや読み聞かせなど、児童が本に触れる機会や時間を増やすように取り組んできた。しかし貸出目標冊数の85%以上は今年度達成できなかった。 			A	<ul style="list-style-type: none"> 本離れが言われる社会の中で、学校図書室の担う役割は大きいと考える。これからも児童が本に触れる機会をつついで欲しい。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活ははッピーアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていたと回答した教員95%以上。 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、「自己肯定感の高まりから他者への思いやり」につながるハートフルタイムを年3回設定する。 ・道徳に関するアンケートや、生活ははッピーアンケートを実施し、実態把握を行う。 ・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎月1回、児童の情報共有の時間を設定する。 ・授業や学校行事を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・児童を称賛する場面を多く設定し、自尊感情を育てる。 ・計画的に、学年に応じたキャリア教育を実施する。 ・キャリアパスポートの活用を継続し、将来の夢や目標を考えさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への思いやりが繋がるよう、ふわふわ言葉について各クラスで話し合い、意識して使えるようになってきた。また、毎月末に生活ははッピーアンケートを実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活ははッピーアンケートを実施し、生活タイムを用いて職員間で情報共有した。また、子どもタイムで気になる児童や問題行動等の情報交換を定期的に行った。 ・活動の見直しをもたせ、目標設定の時間を確保し、自主的に生き生きと活動に取り組みるように、声かけや支援を行う。活動後には振り返りの時間を設けたことで、自らの頑張りと友達のよい所に気付かせることができた。 ・「自尊感情を高めるために、教師がほめるだけでなく、児童が相互に頑張りをほめる場を設けた。 ・キャリアパスポートを毎年継続的に作成することで、自分の成長を可視化できるようにすることができている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や集会など、保護者や地域が参加できるようになって数年たち、参観できる機会も増えたことは嬉しい限りである。 ・キャリア教育を含め、地域の人材を児童の学習のために、どんどん活用していきたい。 	A	道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が毎日笑顔で登校、満足で下校する学校づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は楽しい」に肯定的な回答をした児童80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で全児童を見る体制づくり。 ・児童の「楽しい」を掲示などで具現化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な子どもタイムで、担任だけでなく、学年グループを始め、全職員がチームとなり児童を見られるよう情報共有を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の「子どもタイム」で職員の情報共有を行うとともに、担任だけでなく、学年グループなどのチームとして児童に対してきた。 ・学校アンケートでは、98%の児童が「学校が楽しい」と答えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝登校してくる児童が、2学期以降は表情もよくなった。 	管理職	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒75%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする 	<ul style="list-style-type: none"> ①長縄や竹馬やフライング、柔らかなボールなどの貸し出し、整理整頓を行い、外遊びの意欲向上を図った。 ②「さがんキッズスポーツチャレンジ」を全体に周知させたが実行している学級が少ないため、引き続き呼びかけを行っていく。 ③給食ニュースや掲示物などで食に対する意識づけを図った。ゲストティーチャーや体験学習、食育週間などを活かして、より良い指導に取り組んでいる。 ④交通挨拶指導を行い、児童の登校の様子を把握するとともに、児童の安全意識を高めた。 ⑤地域の方々と共に交通安全教室、地域への交通安全啓発の交通パレード(6年)を実施した。1・2年生は、実際に町を歩き、「安全な道路歩行」の学習を実施した。 ⑥春の遠足前、全校に向けた交通安全教室を行い、遠足の実践に備えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、準備している長縄やボールを利用し、外遊びをする児童が多かった。今年度は、「さがんキッズスポーツチャレンジ」には全学級が参加した。 ②3・5年生の味噌づくり体験や、作った味噌を用いた調理実習を各学年で実施した。給食委員会でも食材に関する新聞を作成し、児童が食育に触れやすい環境づくりを目指した。 ③今後も、登校指導や風水害避難訓練、交通パレードなど、学校・保護者と共に、外町ボランティアをはじめとして地域も連携して取り組んでいきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、準備している長縄やボールを利用し、外遊びをする児童が多かった。今年度は、「さがんキッズスポーツチャレンジ」には全学級が参加した。 ②3・5年生の味噌づくり体験や、作った味噌を用いた調理実習を各学年で実施した。給食委員会でも食材に関する新聞を作成し、児童が食育に触れやすい環境づくりを目指した。 ③今後も、登校指導や風水害避難訓練、交通パレードなど、学校・保護者と共に、外町ボランティアをはじめとして地域も連携して取り組んでいきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外町小学校の児童は、外遊びをしている児童が多い。それに対して、週末や長期の休み中は地域であまり児童が遊んでいる姿を見ることがない。せめて、学校にいる間は外で健康的に遊ぶことができる環境を作っていくて欲しい。 ・安全教育に関しては、地域でも積極的に子どもに関わってほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①保健体育部 ②生活指導部
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○業務改善への意識向上 ○教員の特別支援教育への意識の向上と支援のあり方の理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○1年間で業務改善の取り組みを3回以上行う。 ○特別な支援が必要な児童への支援の在り方に関するアンケートで、肯定的な回答の教員95%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善やライフワークバランスに関する研修を行い、意識向上につなげる。 ・年休を取得しやすい雰囲気づくり。 ・特別支援教育に関する研修会を年に5回実施する。 ・校内教育支援委員会を通して、情報共有を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や時期に合わせ、予告あり、なしの防災教育を計画的に行った。命を守るための考えた行動が、身に付き始めている。 ・職員に、「外町小学校・業務改善」について指針を示し、現状と目標について話した。 ・会議等は時間内に終わることができている。ペーパーレス化で、印刷費だけでなく、印刷にかかる時間も効率化している。 ・夏休業中に「働きやすさ」「働きがい」も含めたライフワークバランスの研修を行った。 ・年休の取得は多いが、個人差がある。取得者のリフレッシュにつながる年休取得の増加を目指していきたい。 ・夏休みに、講習招聘の児童理解研修会を実施した。 ・校内教育支援委員会を定期的に実施し、児童の現状を把握し、職員で情報共有をした。 ・支援が必要と思われる児童について定期的な計画をし、対象の児童について各担任と学びの担当が協力して、個別的教育支援計画や指導計画を作成した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通した研修や声かけを通して、主に、教職員の意識の改革に主に取り組んだ。 ・年休の取りやすい雰囲気はつくることができている。 ・若手職員の在任時間が長い傾向があるため、改善していく必要がある。 ・全体での研修は、年間回実施した。子どもタイムの際には児童支援のあり方についてのフロンティア資料を提案した。また、ケース会議を継続的に開くことで具体的な支援について関係者で協議することができた。 ・定期的な研修会を必要としている児童の引継ぎがスムーズに行くように個別の指導計画の作成を進めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の勤務時間と共に、心身の健康についても気にかけている。外町ボランティアを始め、働き方改革につながるよう地域でも助けていきたい。 ・先生方がより生き生きとした姿を見せることで、将来教員になりたいという児童も出てくると考える。そのために先生方の業務改善は積極的に進めてほしい。 	B	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一台端末の日常的活用に向けた公開授業や研修の充実 ○職員間の活用率の差の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間5回以上の一人一台端末を活用した授業公開 ○年間5回以上の校内における情報教育研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究として全校的な活用の推進 ・実践例の共有、アプリケーション等の有効な使い方に関するOJTの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休業中に研究主任による研修、11月に講師招聘による研修を行った。 ・「1人1台端末を活用した授業改善」での研究発表として、7本の授業公開を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校での継続的な取り組みや研究発表を通して、授業におけるICT利用率向上が見られた。 ・授業の内外を問わず、一人一台端末を活用しようとする児童の姿が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・参観時に児童の様子を見たが、低学年の児童もほとんども問題なく一人一台端末を使っている姿に驚かされた。 	ICT担当	
○郷土を誇りに思ふ教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○外町小学校・唐津を好きになる教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「外町校区が好き」「唐津が好き」に肯定的な回答をした児童90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・外町ボランティアを中心とした、地域の人材を積極的に活用し、地域の方々と文化に触れる機会を多く設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業である、宮島醤油の方をゲストティーチャーに招いたみそづくりや、地域探検など、計画的に行った。3学期は、校区内のゲストティーチャーを中心としたキャリア教育を計画している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の方を中心としたキャリア教育「外町おしごとフェス」を実施した。自分の将来について考えとともに、校区内に誇りをもつ良い機会となった。「唐津・外町校区が好き」な児童は、共に93%を超えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外町小学校は、保護者も外町小学校の卒業生という家庭が多い。家庭や地域とは連携が取りやすい環境であり、いろいろな取組を行っていったら、と考えている。 	管理職	

●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を高め、学校行事に主体的に取り組む、自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進する。来年度も学年に応じたキャリア教育を行い、キャリア教育と志を高める教育の充実を図る。 地域の人材、施設との交流を積極的に推進し、外町小学校区が大好きな児童の育成を図る。 保護者のアンケートの結果より、学校では、特に「やさしい言葉遣い」「進んで読書」「食育」に重点を置いて取り組み、地域・家庭と連携して「家庭での読書」「家族や地域でのあいさつ」を推進する。 校内研究のより一層の充実を図る。一人一台端末の活用を重点置き、「個別最適な学び」と「協働的な学び」における、選択肢の一つとした一人一台端末の効果的な活用法に焦点を当てて校内研究を深める。 児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、地域防災訓練等を、家庭・地域と連携して計画的に実施する。 若手教員が年々増えてきているので、引き続き、初任者指導教員や初任研コーディネーター、初任者メンター、中堅教員等に働きかけ、若手教員向けの研修とメンターミーティングの充実を図る。
----------------	---